

令和5年度 公共事業再評価(農業農村整備事業)

集落基盤整備事業

朝霧高原地区

経済産業部 農地局 農地保全課

1 位置図／事業概要（事業の目的）

課題

- ・ 農業生産基盤の整備が不十分。生産少子高齢化による農業担い手不足
- ・ 生活環境の基盤である営農飲雑用水が老朽化
快適な生活環境と定住条件の確保に向けた地域環境整備の実施

集落基盤整備事業

農業生産基盤整備

生産性向上、
営農経費の節減

農村生活環境整備

生活環境改善
生活・地域用水の確保

一体的
に実施



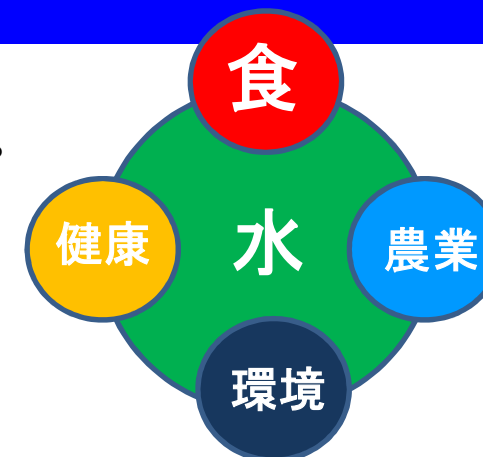
事業目的

農業生産性の向上や維持管理労力の節減を図るとともに、農村環境の保全や農村と都市との交流により、農村地域の維持・活性化を図ることを目的とする。

富士宮市フードバレー構想との関係

富士宮市が目指す、「食の循環」を基本コンセプトとした構想。
「水」を中心として「食」→「農業」→「環境」→「健康」→「食」の循環を目指す。
集落基盤整備朝霧高原地区では、この「フードバレー構想」を支える食の供給・都市と農村の交流基地とするための基盤整備に取り組む。

朝霧地区は、酪農、養鶏、水稻、高原野菜（キャベツなど）、わさび、落花生、ねぎ、クレソン等の多様な食材の供給基地。



1 位置図／事業概要（事業内容）

地区概要

施工箇所：富士宮市猪之頭ほか

受益面積：195.3ha

工期：平成25年度～令和7年度

事業費：2,185百万円

事業内容：

農業生産基盤整備

農道整備 L=3,846m 計5路線

農業用排水路 L=140m 計2路線

ほ場整備 A=10.5ha

農村生活環境整備

集落道整備 L=1,660m 計4路線

集落排水路整備 L=387m 計1路線

営農飲雑用水整備 L=9,375m

ア 農道整備



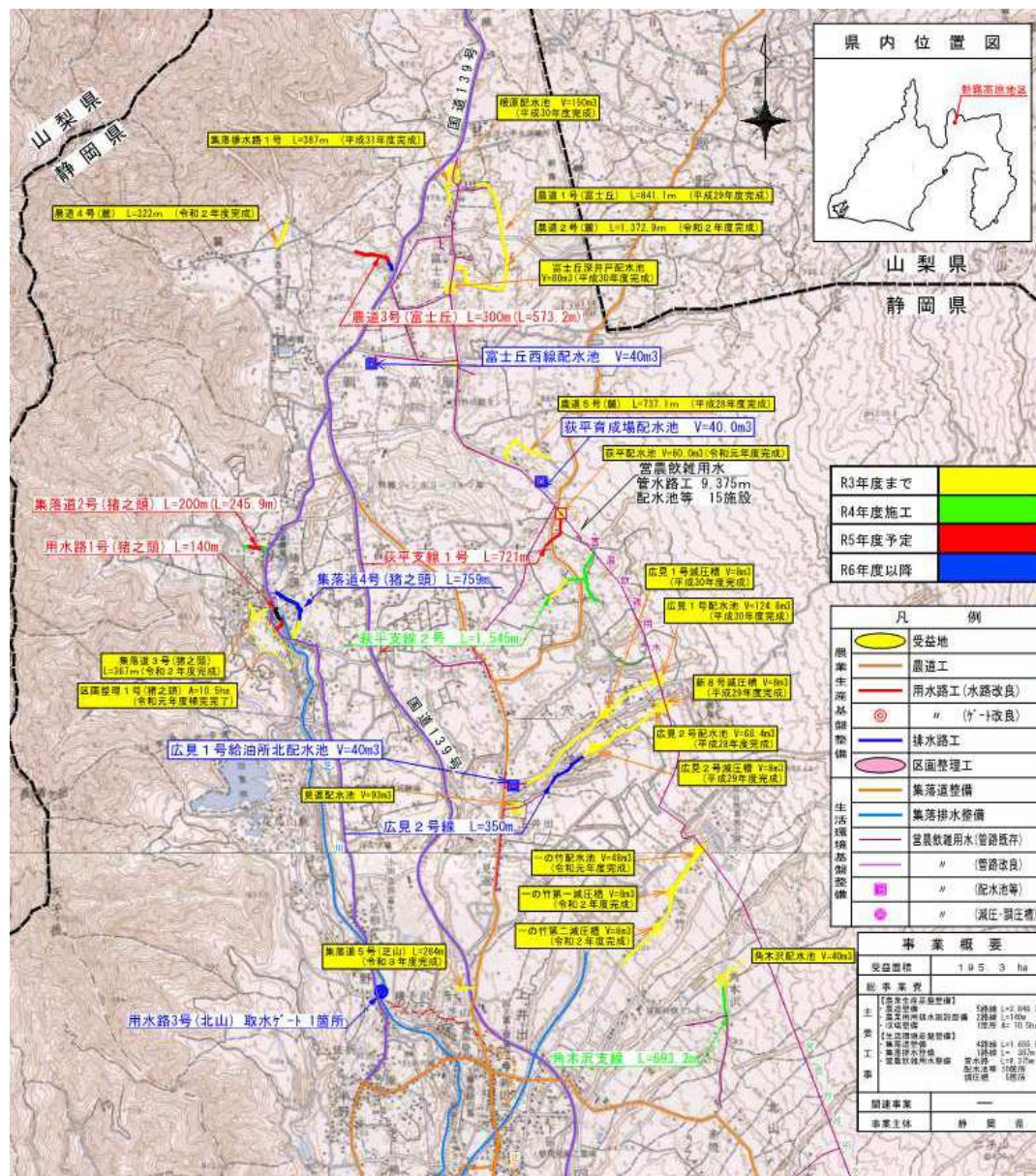
ウ 集落道整備



イ 圃場整備



エ 営農飲雑用水整備



1 事業概要（当初からの変更点・理由）

項目	当初(H25)	今回(R5)	主な変更理由
①計画期間	H25～R02	H25～R07 (+5年)	・設計変更に伴う事業量の増加により工期が延長
②全体事業費	1,346百万円	2,185百万円 (+839百万円)	・軟弱地盤による道路工の路床改良の増 ・営農飲雑用水整備にかかる管路延長増、及び配水池における構造の変更

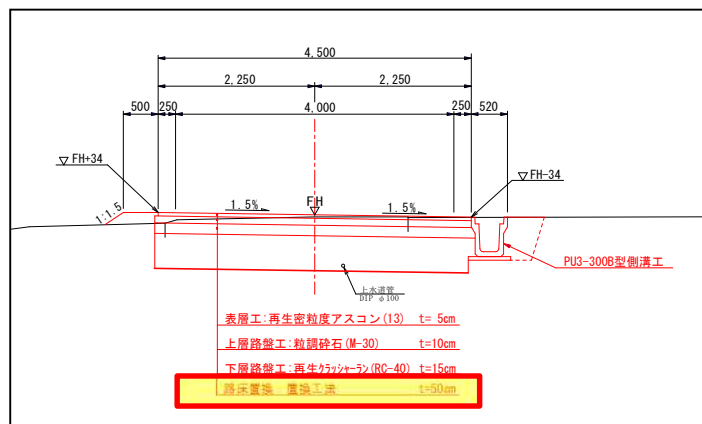
当初からの変更（工法変更）

農道整備・集落道整備

営農飲雑用水整備

【当初】→【変更】

- ・軟弱地盤に対する、路床改良の追加による増額
(165,000千円 増)



【当初】→【変更】

- ・公道埋設へのルート変更による舗装復旧費用の追加と延長の増加
管路延長 7,248m → 9,375m (2,127m増)
事業費 240,000千円 ⇒ 624,000千円 (384,000千円 増)
- ・配水池の構造変更、内面塗装の追加、場内配管の増加による増額
事業費 4,400千円/基 → 13,000千円/基
(8,600千円/基×10基=86,000千円 増)



【視点1】事業の必要性等（その1）

（1）事業を巡る社会情勢等の変化

- [課題]
- ・ 少子高齢化による農業の担い手不足に伴う、荒廃農地の増加
 - ・ 営農飲雑用水施設の老朽化等による生活環境の悪化
 - ・ 道路が狭小のため、農業の大型機械化や来訪者の車の通行が困難

- [対策]
- ・ ほ場、農道及び農業用排水路の整備による農業の生産性向上と省力化
 - ・ 農業集落道や集落排水路、営農飲雑用水の更新整備による生活環境改善
 - ・ 道路拡幅による来訪者の交通の利便性向上と地域の周遊促進

農道整備

幅員が狭小



拡幅され大型機械にも対応



【視点1】事業の必要性等（その1）

ほ場整備



- ・小規模で不整形な農地を大区画することにより生産性向上と省力を図った。
- ・農地の有効活用が進み、地区外の大規模経営体も参入

営農飲雑用水施設



- ・老朽化した営農飲雑用水施設を更新することで飲料水等が安定供給される。
- ・管路を道路埋設することにより施設の維持管理・点検等が容易となった。

【視点1】事業の必要性等（その1）

○集落基盤整備による集落環境の活性化



地場産品の直売所「わいわい市」がH25に誕生し、農家が野菜や加工品を販売



水稲だけでなく、落花生なども栽培され、落花生はピクルスに加工して販売(R1)



本地区の多様な農産物は、フードバレー構想の「食の循環」を支えている

H28に猪之頭振興協議会発足(H30にNPOに移行)



里山体験ツアーやファムトリップ(H29～)を実施し都市農村交流を促進



H30にイベントを通じて都内レストランと“一社一村しずおか運動”協定締結

移住定住促進活動



H28以降8家族が移住地域を挙げて歓迎会を実施

【視点1】事業の必要性等（その1）

ダイヤモンドプリンセス号の
ツアー受け入れ（R1）
本年度から受け入れ再開



ツアーの様子

市内住民を対象に農村マイクロ
ツーリズムモニターツアーを実施
参加者から好評を得た（R3）



ツアーの様子

地域の取り組みが評価され
ふじのくに美しく品格のある邑づくり
知事顕彰受賞（R3）



【視点1】事業の必要性等（その2）

（2）事業の投資効果

- | | | | |
|------------|-----------|-----------|----------|
| ・作物生産効果 | 3,513百万円 | ・営農経費節減効果 | 4,653百万円 |
| ・維持管理費節減効果 | △1,608百万円 | ・走行経費節減効果 | 850百万円 |
| ・生活環境改善効果 | 648百万円 | ・生活用水確保効果 | 4,132百万円 |

総便益(B) 142.22億円
総費用(C) 71.08億円

総費用総便益比
B/C=2.00

経済的内部収益率
EIRR=17.39%

（3）事業の進捗状況（令和5年度末見込み）

事業費進捗率：82.9% 事業量進捗率：91.9%

【視点3】コスト縮減・代替案立案等の可能性

○朝霧高原地区農道3号

農道3号の建設発生土は、地区外へ搬出する計画であったが、近隣の牧草地への建設発生土の有効活用によりコスト縮減を図る。建設発生土の活用により牧草地の勾配が緩やかになる。

本事業のコスト縮減
△10,717千円

農道3号工事発生土 $V=1,300\text{m}^3$

工事発生土処分費コスト
比較表

処分方法	運搬距離	処分費(m ³ 単位)	総コスト(千円)
有償処分	25 k m程度	2,300	13,500
牧草地造成	1 k m未満	0	2,783
縮減額			10,717

富士宮市根原牧草地(造成予定地)



工事発生土搬入経路図

対応方針（案）

- 本事業は、農業生産基盤と農村生活環境の整備を一体的に行うことで地域活性化を図るものであり、近年の農業の担い手不足や高齢化等により、事業の必要性は一層高まっている。
- 本事業の整備に伴い、農業振興と地域振興が図られている。これにより、農業や農地などの地域資源が健全に保たれている。
- さらに、地域資源を活用し都市と農村との交流や農村集落のコミュニティ活動が活発化している。
- 投資効果も十分に見込め、事業継続への地元の意向も高く、今後の事業進捗も見込まれる。



本事業を継続し早期完成を図る